

「将の将たる器」

経営者にとって一番必要な能力

「老子」第17章
理想的な君主とは

最高の君主とは、人々がその存在を知るばかりである。
その次の君主は、人々に親しまれ、称賛される。
その次の君主は、人々に恐れられ、
最下位の君主は、人々に侮られる。

「史記」高祖紀

高祖：漢の劉邦

楚王：項羽

「将の将たる器」

漢の劉邦には偉業を達成するのに力を尽くした多くの功臣（参謀）がいた。
劉邦が彼らを評して言った。

「帷幄で作戦を練り、千里の遠くにいる敵を打ち破る手腕では、私は張良には及ばない。国内をよく治め、万民を撫育する才能では、私は蕭何には及ばない。戦場でかならず敵を撃破する能力では、私は韓信に及ばない。この三人は天才である。しかし、私には彼らを超えた才能がある。それは、このような天才をつかひこなすという能力だ。項羽にも范増という良臣があったが、そのひとりもつかひこなせなかった。だから項羽は敗れたのだ。」

人をみだりに貶めれば、自分の品格も下がるばかり

「自分より優れた者を自分のまわりに集めし徳を心得し者、ここに眠る」

アンドルー・カーネギーの墓標

「上に立つ人物は部下の立場で考えてみること」

歴史には真実は隠されています。

「賢者は歴史から学び、愚者は体験にしたがう」

「歴史は繰り返す」

我々は結果を知っているから、

「単純」に考えてしまう。

もっと、彼等が何に悩み、どう考えたのか？

巨視的な観察力を持つことにより、

「ものごとの本質」が捉えられることが出来ると思います。

人を動かすには、「自分自身を律する」ことを歴史は証明しているんでしょね。
これが一番、難しいんだな！